

(別紙様式 = 中学校用)

都道府県番号	35
都道府県名	山口県

【  】  
\*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	光市立島田中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	1	12	25
生徒数	112	105	141	5	363	

研究の概要

(1) 研究主題

学びにドラマを創り出す  
～わかる喜びや創る楽しさを実感できる授業展開の工夫～ (二年次)

(2) 研究主題設定の趣旨

学びのドラマは、わかる喜びや創る楽しさを実感できる授業のプロセスを通して実現できるものである。そして、それは「確かな学力」と「豊かな心」に支えられてより感動的なものとなる。学力の向上はこうした学びのドラマの積み重ねによって可能になる。  
そこで、本校では次の5つの視点を踏まえて授業を構想し、展開することが大切であると考えた。  
研究二年次である今年度は授業改善を研修の中核とし、個に応じたきめ細かな指導の在り方を研究することとした。

学びにドラマを創り出す5つの視点

- 【 わかる喜び 】・・・基礎学力の向上・定着をとおして
- 【 創る楽しさ 】・・・企画・制作・ものづくりをとおして
- 【 ふれあう温もり 】・・・人や社会とかかわる体験をとおして
- 【 達成する充実 】・・・多岐多様な体験をとおして
- 【 尽くすやさしさ 】・・・自他の思いを大切にする活動をとおして

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

研究体制  
昨年度同様に次の三部会を設置し、全教員がいずれかの研究部に所属し研究推進にあたった。

学力向上フロンティア部・・・個に応じたきめ細かな授業の実践  
基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上

心すこやか育成部・・・豊かな心を育てるための実践

学校いきいきプラン推進部・・・総合的な学習の企画運営、ゆとりの時間  
(RT)における基礎学力定着の実践  
RT(レインボータイム)

研究体制の工夫点としてはいくつかあるが、一つはそれぞれの研究部が実践の提案をし、全体の職員会議で協議、共通理解を図りながら研究を進める体制をとったことである。とかく研究といえばトップダウン的になりがちであるが、

こうした体制をとることで、各部が、すなわち全教員が主体的に活動し、ボトムアップ的な研究が進められるようになり、活性化が図られた。

具体的には、「心すこやか育成部」から道徳の授業研究の提案が、「学校いきいきプラン推進部」からは総合的な学習のトータルプランやRTの企画についての提案がなされた。「学力向上フロンティア部」からは「わかる喜び、学ぶ楽しさを実感できる指導の工夫」について提案がなされ、全教科で取り組んだ。

研究体制の工夫点の二点目としては少人数指導を行っている教科だけでなく、全教科で学力向上に取り組んだことである。昨年度は少人数指導を行っている英語、数学を中心とした取組がなされたが、学力向上はあらゆる学習形態で図られるものであることを再認識し、全教科で取り組むこととしたのである。授業研究もその意味で全員がミニ研究も含めて年間に一度は行うことにし、実践を進めている。

#### 研究テーマ

必修教科の授業および選択教科におけるきめ細かな指導の実施  
ゆとりの時間（RT）における運用の定着化  
「豊かな心」を育むための実践  
ラーニングルームの効果的利用や長期休業中における質問日学習の設置  
校内研修の活性化

#### 実践方法や配慮事項

研究一年次は学力向上を図るためのシステムを構築した。2年目である今年度はそのシステムに基づき実践を重ねていった。1年次は少人数指導を行っている英語、数学が研究の中心であった。今年度は少人数指導だけでなく、あらゆる学習指導の形態においても「個に応じた指導方法・指導形態の工夫」がなされるよう全教科で取り組んだ。当然、中核となるのは授業改善である。

#### (2) 研究の実際

ここでは上記、を中心に述べる。  
研究テーマ「必修教科および選択教科におけるきめ細かな指導」について次の2点を研究の方針として研究に取り組んだ。  
ア すべての教科において、「わかる喜び」を実感できるような授業展開の工夫を考え、基礎・基本の定着をめざし、個に応じたきめ細かな指導の実践に努める。  
イ すべての教科において、生徒の学ぶ意欲をいかに引き出すことができるか、また、関心・意欲・態度の評価をどう行い、それを次の指導にどう生かすかなどの研究を進めることで「学ぶ楽しさ」を生徒が実感できるような授業の実践に努める。

少人数指導やTTを行う教科はもちろんのこと、その他の教科において、「個に応じたきめ細かな指導」を実施し「わかる喜び」を実感させるために、下記にあげた「きめ細かな指導の視点」を明確にした。

- ・その時間に身に付けさせたい力を具体的に明確なものにする。
- ・生徒への課題の提示を明確にする。(学習者もめあてをもてるようにする。)
- ・机間支援を通して、つまづきを確認しながら個々にあたる。
- ・生徒の活動の時間(班による活動や教え合いの時間)を十分に保障する。
- ・授業で使用するプリントの様式・内容構成・分量などの工夫をする。
- ・わかりやすい板書の工夫をする。
- ・発展学習・補充学習の課題を工夫する。

また、本校は少人数指導は3年数学科で実施している。少人数指導による習熟度別指導も3年目である。基本的に、各單元ごとにすべての時間を生徒の選択で「基礎」と「発展」の二つのクラスに分けて実施している。配慮している点としては、

- ・個々の生徒に応じた学習活動ができるような指導計画の工夫  
(基礎コースにおける復習の重視と発展コースにおける発展的課題の設定)
- ・コースごとの難易度の設定(過去2年間の経験をもとにした課題設定)
- ・コース選択の参考となるようなレディネス問題の実施
- ・自己決定力を育てる自己選択制(單元ごとに選択)
- ・どちらのコースを選択しても不利が出ないような評価方法の工夫  
などがあげられる。

今年度より1年にも選択教科を開設した。3年の選択数学や選択社会では、基礎と発展の2コースや課題別のコースなど生徒の興味・実態に応じたコースを設定した。選択数学の基礎コースでは、基礎・基本の定着をめざし、今年度から導入した自学自習に役立つドリル形式の学習履歴型教育ソフト「ラインズeライブラリ」を利用した個別対応学習を試みた。これは生徒には大変好評であり、数学が苦手な生徒も意欲的に取り組んだ。

本校では、学力向上の一助として「英語検定」「漢字検定」「数学検定」「歴史検定」を積極的に取り入れており、選択教科においても、各検定合格をめざした学習を実施している。選択教科の時間だけでなく学校全体で各種検定にチャレンジする生徒が大変増えており、2学期末で162名の生徒が何らかの資格をもっている。

確かな学力を育成するためには、「関心・意欲・態度」の育成が必要不可欠である。そこで、各教科における「学ぶ楽しさ」を実感させる具体例をお互いに提示し合い、日々の授業実践に努めた。

研究テーマ 「ゆとりの時間(RT)の運用の定着化」について

昨年度より、水曜日の5,6校時を授業を組み入れず柔軟に運営しているが、今年度はこのRTを基礎学力向上の時間の一つとして定着するよう、運用の工夫を図っている。昨年は英単語、英熟語だけであったが今年度は英単語だけでなく漢字の読み書きも取り入れて実施している。このRTの時間における学力向上のための実践は「学校いきいきプラン推進部」が綿密な計画を立案し全体に諮ってきている。この時間は単に知識理解面での向上をめざすのではなく、生徒自身で学習計画を立てて学習を進めることができるよう、また、学習習慣を身に付けることもねらいの一つとしている。

研究テーマ 「ラーニンググループの効果的利用や長期休業中における質問日学習の設置」について

ラーニンググループの利用や質問日学習の設置については2年目を迎え、生徒にはしっかりと定着している。教師が随時指導にあたり、生徒の質問に答えるなどラーニンググループの利用も今では日常のものとなっている。この夏休みには計24日間ラーニンググループを開放、そのうち14日間を質問日学習として設定した。冬休みには5日間の質問日学習を設けた。実施の際には、対応できる教科や時間をあらかじめ生徒や保護者にも知らせている。

### (3) 研究の成果と課題

ラーニンググループの利用や少人数教室、の整備等の学習環境の整備により、生徒の学習意欲は格段に高まった。長期休業中においてラーニンググループを開放したり、質問日学習を設定することで、個々の生徒にきめ細かく対応することができ、教師と生徒のよりよい関係を築くこともできた。授業研究を中核とし、全教科で具体的な「きめ細かな視点」をもって取り組めたことは、「個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善」を図る上で有効な実践であった。昨年度から各種検定試験へのチャレンジを奨励してきたが、資格取得者が激増してきたことも、学習意欲向上の表れであるといえる。

課題としては、生徒の学びがどう変容したのか、学力にどのような変化があったかなど、その成果を示せるような具体的な検証の方法を構築していくことである。

### (4) 研究成果の普及の方策

- ・テーマを設けた参観日設置
- ・学校だよりや数学科だより等の各種通信により、学校が行っていることを広く知らせ、理解を求める。
- ・管内の教育機関だけでなく保護者や地域に向けても授業公開を行う。

### (5) その他(その他特色ある取組等がある場合に記述)

- ・3年間を見通したトータルプランに基づく総合的な学習の実施

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上

【指導体制】  小人数指導  T Tによる指導  
 その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

各研究部から実践の提案による全校体制での研究実践  
ゆとりの時間における学力向上に向けた実践  
自学自習をめざした学習環境の整備